

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

スカーレットプソルス

【英名】scarlet psolus

【学名】*Psolus fabricii*

「北極 1」水槽の窓をのぞくと、植物のような赤い生き物が目に入ります。これはスカーレットプソルスというナマコのなかまです。細かく枝分かれした花びらのように見える部分は、エサを取るための器官（触手）で、その特徴的な形から樹手とよばれています。口は、花のような部分の真ん中にある小さな穴です。もしも樹手を一本、口の中に突っ込んでいたらいたら、それは食事の個体です。水中の小さな生き物などを捕まえ、口に運んでぬぐって食べています。しばらくすると、その樹手はゆっくり口から出ていき、今度は別の樹手が口の中に入っていきます。ちょっとヒトが食べ物を口に運ぶ姿と重なり、面白さに見入ってしまいます。（教育普及係 高濱 由美子）

CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 水族園初繁殖のタコクラゲ!
- 水族園特製ジュース「ねりミンチ」

なぎさNEWS

- 「西なぎさ」の生き物たち 2024年のまとめ

水族園のもう一つの顔

- 水族園流 種名ラベルのこだわり 作成編

TSLP LATEST



Vol.23 No.2 2025

APRIL

通巻

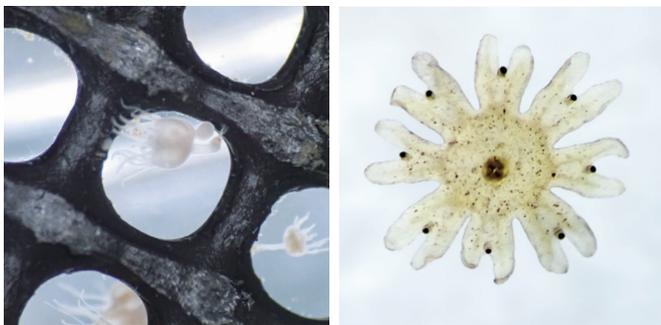
121

SEA LIFE TOPICS

水族園初繁殖のタコクラゲ!

「東京の海」エリア「浮遊生物 6」水槽では、園内で繁殖したタコクラゲを展示しています。タコクラゲは水玉模様の傘が特徴的なクラゲで、姿形がタコに似ていることからこの名前がつけられたとされています。

ある日、タコクラゲを飼育している水槽に、大きさ2mmほどの小さなイソギンチャクのようなものがありました。これはクラゲのなかまの生活史の一つの姿で「ポリプ」といいます。タコクラゲは、このポリプから「エフィラ」という子どもが出て大きくなると、皆さんが見たことのあるいわゆるクラゲの姿になります。今までもエフィラの飼育をしたことはありましたが、



イソギンチャクのような姿のポリプ タコクラゲのエフィラ(直径約2mm)

水族園特製ジュース「ねりミンチ」

海の中には、小さなプランクトンや細かい有機物が漂っています。これらを食べる生き物もいて、二枚貝やカイメンのなかまは海水ごと吸い込んでこし取り、イソギンチャクのなかまは触手を広げて捕まえるなど、さまざまな食べ方があります。しかし、こうした生き物が自然の海で実際に食べているものを用意することは難しいため、水族園では、特製の「ねりミンチ」というエサを作っています。ねりミンチは、サクラエビ、オキアミ、アサリのむき身、皮や骨を取ったアジの切り身、コペポーダ(動物プランクトン)、クロレラ(植物プランクトン)、ゴカイの体液をミキサーで混ぜ、海水で薄めて作っています。ねりミンチは、二つの方法で与えています。一つは、作りたての液体タイプで、決まった場所や生き物に直接スポイトで吹



ねりミンチにはいろいろな材料が使われている

半径5cmほどに育ったタコクラゲ



すぐに死んでしまいました。そこで、エサである小さなプランクトンのブラインシュリンプを今までよりも栄養価の高い種類に変更し、ブラインシュリンプよりも小さなプランクトンのシオミズツボムシも与えました。するとエフィラはどんどん大きくなっていきました!

しかし、新たな課題も出てきました。タコクラゲの体内には褐虫藻が共生しているため、全体的に茶色っぽい見た目をしています。タコクラゲは自分で食べたエサ以外に、この褐虫藻の光合成によるエネルギーを得ています。ところが、育成中のタコクラゲの体は真っ白。褐虫藻が十分についていない証拠でした。そこで、より明るい照明で育成することにしました。照明を交換した次の日、なんと真っ白だった体が少し茶色になっていました!こんなに早く結果が出ると思っていなかったのが驚きました。現在展示している水槽も、ほかのクラゲの水槽よりも明るくしています。さまざまな工夫で大きく育ったタコクラゲ。ぜひご覧ください!(飼育展示係 山中 春佳)

きかけて与える方法です。これにより、生き物にピンポイントで多くのエサを与えることができます。「世界の海」エリア「カリフォルニア沿岸」水槽のオレンジシーベン、「東京の海」エリア「伊豆七島の海 1」水槽のヤギやウミトサカのなかまなどは、この方法で与えています。もう一つは、ねりミンチを冷凍して使う方法です。凍らすことで水槽に少しずつ溶けていき、そのにおいが水槽全体に広がります。イソギンチャクなどは、においにつられて触手を広げ、エサを積極的に食べるようになります。「世界の海」エリア「南アフリカ沿岸」水槽では、冷凍のねりミンチを与える前と後で、触手を広げたストロベリアネモネの数がこんなにも違います。今回はねりミンチを紹介しましたが、水族園ではほかにもさまざまなエサを用意しています。エサの与え方にも工夫があるので、また機会があったら紹介します。(飼育展示係 御子神 幸)



ねりミンチを与える前(左)と後(右)のストロベリアネモネ

なぎさ NEWS

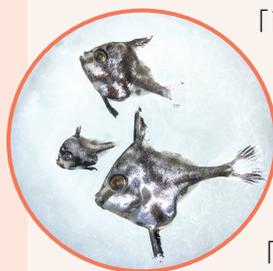


「西なぎさ」の生き物たち 2024年のまとめ

水族園では、葛西海浜公園の「西なぎさ」にくらす生き物の生息状況や季節による変化などを定期的に調べています。今回は、2024年の調査で見られた生き物を紹介します。

【地曳網調査】

■夏の風物詩「ギマ」の子ども



「西なぎさ」では8月ごろに見られ、ギマが入網すると夏の到来を感じます。ギマはひし形の体と、鋭とがった背ビレと腹ビレが特徴的な魚です。採集されたギマは「葛西の海2」水槽で展示し、成長した個体は「東京湾 運河」水槽で展示しました。

■「トラフグ」たくさん

1999年から始まった地曳網調査で、トラフグの子どもは2014年に初めて確認されています。それからほぼ毎年採集されていて、2024年6月の調査では172個体と今までで一番多く採集されました。



■「カライワシ」の子ども



6月と10月には、透明で細長い葉っぱのような形をした魚が採集されました。この魚はカライワシの子どもで、レプトセファルス幼生(葉状仔魚)とよばれています。生まれてしばらくの間は泳ぐ力が弱く、細長く薄い体で浮力を得ていると考えられています。本来暖かい海でくらすカライワシですが、偶然「西なぎさ」に流れ着いたのかもしれません。(飼育展示係 坂本 滉太郎)



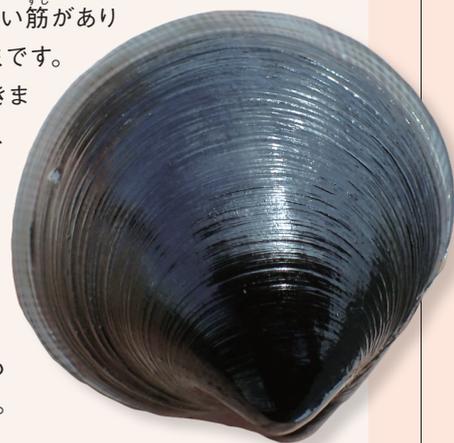
2024年の地曳網調査の結果は、Web版のSea Life News121号でご覧いただけます。

<https://www.tokyo-zoo.net/ebooks/SLN/index.html>

【生き物調査】

■シジミじゃないよ「オキシジミ」

9月の調査では、殻の幅が6cmほどの大きな黒い二枚貝が見つかりました。殻は硬く厚みがあり、横から見ると丸くふくらんだ形をしています。触ってみると、殻の表面には細かい筋があります。これはオキシジミです。名前に「シジミ」とつきますが、シジミ科ではなく、アサリと同じマルスダレガイ科です。オキシジミは調査で1年中見られましたが、大型の個体は9月に多く見つかり、大きな貝殻もたくさん落ちていました。



■初夏に見られる「エゾキセワタ属の一種」

5月と7月の調査で、しおだまりに1~2cmほどの真っ黒な泥の塊のようなものを見つけました。しばらく見ていると、泥の上をゆっくりと移動していて、通ったところに這い跡ができていました。

これはウミウシのなかまでエゾキセワタ属の一種でした。じっくり探してみると、そこにもここにも、たくさんいました。また、泥の上からは、このウミウシのものと思われる卵も見つかりました。もしかすると、「西なぎさ」で繁殖しているのかもしれない。

(教育普及係 加藤 ソフィー)



これはなんだ？



エゾキセワタのなかまだ！

2024年地曳網調査結果

水族園では偶数月に葛西海浜公園「西なぎさ」で小型地曳網を使用した生物調査をおこなっています。一年を通して調査することで、「西なぎさ」に生息する生き物の種類や個体数の変化をみることができます。(飼育展示係 坂本 滉太郎)

分類	実施月	2月	4月	6月	8月	10月	12月	合計個体数
	水温 (°C)	11.5	19.1	26.0	33.5	24.0	15.6	
	塩分 (PSU) ※ 1	31.5	27.1	8.3	19.6	28.4	29.8	
カライワシ目	カライワシ			3		3		6
ニシン目	サッパ					2,419		2,419
	コノシロ			255	168			423
	カタクチイワシ					2		2
キュウリウオ目	アユ		14				1	15
	シラウオ				5			5
	イシカワシラウオ			2		2		4
トゲウオ目	ヨウジウオ科					1		1
ボラ目	ボラ		44					44
トウゴロウイワシ目	トウゴロウイワシ				12			12
スズキ目	スズキ	1	108					109
	ヒイラギ						3	3
	クロダイ		1	69				70
	シログチ				3	2		5
	ナベカ属				3	5		8
	ミズハゼ属		4					4
	ヒモハゼ	1	1	112	5		1	120
	マハゼ		1,522	758	26	15		2,321
	アシシロハゼ	2	191		3	4	1	201
	シモフリシマハゼ					11		11
	チチブ属1			228	2	1		231
	チチブ属2			126				126
	ヒメハゼ					79		79
	ニクハゼ			5	1	22		28
	ビリンゴ	1	2,269	67	4			2,341
	チクゼンハゼ	6		96				102
	エドハゼ	9	258	9,038			11	9,316
	ウキゴリ属		2,018	53				2,071
	ハゼ科		18	214	58	125		415
カサゴ目	マゴチ					3		3
フグ目	ギマ				18			18
	トラフグ			172				172
合計個体数		20	6,448	11,203	306	2,694	14	20,685
種類数 ※ 2		6	12	16	13	15	4	32



※1 普通の海水の塩分は34ほどです。雨の多い季節は川から淡水が多く流れ込むため、薄まって値が低くなります。
 ※2 種がはっきりしていない仔・稚魚も、1種として数えています。

水族園 のもう一つの顔

種名ラベルの
内容については
前号をチェック!



種名ラベルは一つ一つ手作りです!



水族園流 種名ラベルのこだわり

作成編

水槽の近くには、展示されている生き物の名前や情報を紹介するための種名ラベルがあります。実は、この種名ラベルは水族園スタッフの手作りなのです。今日も飼育展示係から、種名ラベルを作る教育普及係に、「閉園後、ホウボウを水槽に入れます!」と連絡がありました。どのように作っているか、一緒に見てみましょう。

1 データの準備!

種名ラベルには、絵、和名、英名、分類、学名が記載されています。これまで水族園で展示したことがある生き物の種名ラベルはすべてデータとして残っています。そのため、まずはホウボウのデータがないかチェックします。たしか、この辺にあったはず・・・あ!ありました! データを開き、内容に間違いがないか確認します。分類や学名は、研究の進展により変更されることがあるので、特に注意が必要です。

はじめて展示するときは、一から作成します。和名や英名はもちろん、分類や学名も論文を読んだり図鑑で調べたりします。絵がすぐに用意できないときは、写真を撮って使用することもあります。

データ
ヨシ!



2 いざ作成!

3層構造
だよ!



ブックカバー

ラベルシール

マグネットシート

データが整ったら、作成にとりかかります。種名ラベルは3層構造でできています。内容が印刷されたラベルシールをマグネットシートにはり付け、汚れや劣化を防ぐためのブックカバーで保護したら完成です。ブックカバーやラベルシールをはり付けた後、気泡が入っていたらカッコ悪い…。そうならないように、はりたい面に霧吹きで水を吹き付け、小型のローラーで密着させます。乾いた状態よりも、空気が押し出されやすくなるため、きれいに仕上がるのです。

3 さあはり出すぞ!

きれいに作れたら掲示します。今回は、閉園後に「東京湾の漁業」水槽にホウボウを入れるとのことだったので、明日の開園前までに掲示することにしました。基本的に、種名ラベルの掲示や入れかえは、開園前か閉園後におこなっています。しかし、なかなか手に入らない生き物が急遽搬入されたときは、開園中にはり出すこともあります。もし、そんなスタッフを見かけたら、どんな生き物がデビューしたのか聞いてみてください。

マグネット
シート製だから
はり替えが
簡単!



このように、飼育展示係と教育普及係が連絡を取り合いながら、種名ラベルの管理をしています。これからも種名ラベルのような水族園流のこだわりを通して、「この生き物なんだろう?」という疑問にいつでも正確に答えていきます。(文章:教育普及係 小川 悠介 / 監修:教育普及係 片澤 達夫)



TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 2/9 身近な水辺保全講演会「知って守ろう水辺の生き物」開催
- 2/15-28 「Deep of Wonder 不思議な深海の生き物たち」開催
- 2/21 「小笠原の海 1」水槽にナガサキズメダイを展示
- 2/22 「深海トークショー」開催
- 2/23-24 開園35周年記念イベント「かさりんBASE! 深海」開催
- 3/9 開園35周年記念・サンゴプロジェクト合同イベント「かさりんBASE! サンゴ」開催
- 3/15 小学3・4年生向け「海のおそびや」第2回開催
- 3/15 小学5・6年生向け「集まれ! 汐っ子たち」第2回開催
- 3/16 高校生・大学生向け「海の学び舎2024」第2回開催
- 3/20 未就学児向け「進め! 海のいきものたち」第2回開催
- 3/20 小学1・2年生向け「いきものはじめ」第2回開催



TOKYO
SEA LIFE
PARK

編集後記

鮮やかな赤色の木のように樹手を広げたスカーレットブソルス。海には同じように「これが本当に動物なの?」というものが多くいます。それでも体のつくりをよく見てみると、例外を除き、私たちと同じように口があって何かを食べて生きています。どこに口があるのかな? 何をどんなふうに食べるのかな? など想像しながら見てみると面白い発見があるかも? (田中)

SEA LIFE NEWS 通巻 121

Vol.23 No.2 2025 APRIL 4月1日発行 (次号は2025年6月発行予定)

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/

発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

